

史料室だよ

清泉女子大学史料室 Seisen University Archives

No.17 大学史料室の装飾天井



大学史料室は国の重要文化財に指定されている「旧島津家本邸 二棟(本館 事務所)」のうちの一つであるレンガ造り2階建ての「事務所」(本学3号館)の2階に位置しています。

大学史料室となっている部屋は、白漆喰の壁と装飾 天井、アイボリーの絨毯、白大理石風の展示ケース が調和し、多くの来訪者から感嘆の声が上がる空間 です。

また、こちらの部屋はこの建物の中で唯一天井装飾がなされており、島津家時代には特別な用途に使われたと考えられます。天井装飾は豪華さこそ「本館」ほどではありませんが、大変に美しいものです。



この部屋の具体的な用途については、現存する資料 に記録が残っておらず用途は不明です。

ただし、島津家第 32 代当主の島津修久氏*1 のインタビュー記事(「『袖が崎の本邸*2』の思い出。」)から、現在の大学史料室がかつて「島津家資料編纂所」として使用されていた可能性も示唆されます。

「『袖が崎の本邸』の思い出。」一部抜粋

「レンガ造り二階の建物は、私どもは『事務所』と呼んでいました。ここはある時期、島津家が所有していた歴史資料を収集整理、研究していたところで『島津家資料編纂所』がありました。今、東大にある国宝『島津家文書、資料集』なども、ここにあったものです。」

号 2016 年 4 月 15 日発行) 新たな資料の発見や研究の進展により、この部屋の

島津家時代の具体的な用途や歴史的背景がより明

確になることが期待されます。

(「東京人 特集:清泉教育のあゆみ」4月増刊号 通巻369

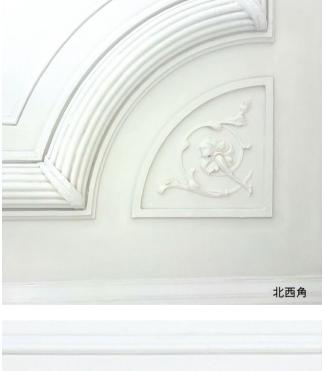
*1 島津家第 32 代当主の島津修久氏: 2024 年 12 月 31 日 逝去。

*2 袖が崎の本邸:昭和10年代には「旧島津家本邸」を島津家では「袖が崎の本邸」(袖が崎とは当時のこのあたりの地名)と言い、修久氏は「御本邸(ゴホンテイ)」と呼んでいた。修久氏は、この邸宅の裏口(本学北側裏門)から2、3分の距離の「別邸」で生まれ育ち、兄妹とともに祖父の忠重公が居住する「ゴホンテイ」へ遊びに通ったことを、同インタビューの中で語っている。











「史料室だより」は清泉女子大学公式インスタグラ ムにて連載中です。